

プロフィール

所在地	千葉県市原市
団体名	市原ボッチャクラブ
活動名称	パラスポーツ「ボッチャ」の競技力向上を目指す選手育成活動、「ボッチャ」普及・振興活動
こんな活動です	「ボッチャ」で誰もがスポーツを楽しむ
連携している団体等	小学校、特別支援学校、高等専門学校、公民館、スポーツ団体、行政（教育委員会、保健・福祉部局、スポーツ振興課）

功 労 者 表 彰

活動分野	学習、スポーツ
主な対象	身体障害者、知的障害者、視覚障害者
団体の規模	選手会員 22 名 サポート会員 10 名

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児・者の「ボッチャ」の競技性や技術向上を目的としてパラリンピック出場を支援する。 ・ 障害をもった方はもちろん高齢者や子ども等誰もが「ボッチャ」スポーツを通して体力維持や日常生活・コミュニケーション能力向上をサポートする。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ登録選手の月間 8 回の定期練習会を実施。 ・ 市原市域の小学校やバリアフリースポーツ教室・公民館・高齢者及び福祉団体からのボッチャ・レクリエーションの指導・体験会の実施。 ・ 千葉県域のスポーツ推進員や青少年育成団体からの「ボッチャ」普及・推進活動。
③活動の効果等	<p>平成 14 年設立から現在に至るまで、永年にわたりユニバーサルスポーツの一つである「ボッチャ」の普及・振興に取り組み、障害の有無や年齢、性別にかかわらず、誰もがスポーツを通じて社会参加できる「共生社会づくり」と「生涯スポーツ」として市民の健康増進に寄与しています。</p> <p>その活動は市内にとどまらず、千葉県内の特別支援学校等において「ボッチャ」の大会や体験会を開催したり、学校や公民館、スポーツ施設において「ボッチャ」教室の開催協力をしたりするなど、幅広く普及・振興活動にも積極的に取り組み、市原市及び千葉県の障害者の生涯学習支援に尽力しています。</p> <p>また、2016 リオデジャネイロ パラリンピック大会「ボッチャ」競技の銀メダリスト廣瀬隆喜を輩出しています。</p>

活動の様子



千葉県障害者ボッチャ交流会 2019



市原ボッチャクラブメンバー

プロフィール

所在地	東京都千代田区
団体名	ヘルマンハープちよだ
活動名称	ヘルマンハープちよだの演奏活動
こんな活動です	障害の有無に関わらずメロディを奏でられるヘルマンハープの演奏を通して積極的に社会参加をしています。
連携している団体等	中学校、公民館、社会教育関係団体、社会福祉法人、行政（教育委員会、保健・福祉部局、生涯学習・スポーツ課、文化振興課）、日本ヘルマンハープ振興会

奨励者表彰

活動分野	文化、演奏
主な対象	知的障害者とその保護者
団体の規模	会員数 15名 (知的障害者7名、保護者6名、他2名)

活動の説明

①活動内容	<p>【目的】 五線譜を読むのが苦手であっても演奏できるヘルマンハープの演奏を通して生涯学習の機会や余暇の充実を図ることができ、演奏する仲間や地域の人との交流など積極的に社会参加をする。</p> <p>【演奏会出演数】 2011年（1回）～多い時は2017年12回。2019年は10回（11月現在）</p> <p>【区内演奏活動】 千代田区新年交歓会・芸能のつどい・障害者理解促進事業・多世代交流事業・男女平等共同参画事業・福祉施設訪問演奏・日曜青年教室40周年記念オープニング演奏・神田一橋中学校放課後特別講座</p> <p>【区外演奏活動】 川越市社会福祉大会・杉並区済美文化の日大会（知的障害者音楽祭）・文京区福祉施設・中央区福祉施設・日独青少年指導者交流送別懇談会・さわやかコンサート in 県民プラザ（千葉）日本ダウン症協会150周年記念事業交流会オープニング演奏・とっておきの音楽祭 in 仙台・アースプラザ神奈川コラボ演奏・浦安市社福祉施設・知的障害者対象ハッピーダンスオープニング演奏 in 舞浜</p> <p>【練習曲】 38曲 唱歌・映画音楽・ポピュラー音楽・クラシック他</p> <p>【工夫】 人脈・マスコミ・公的事業等からできるだけの情報を集め、演奏する機会の確保によって練習や社会参加の励みにしている。</p>
②活動体制	代表兼講師1名・副代表2名・知的障害者7名・その保護者6名他2名 計15名 *開かれた団体として障害がある人の見学及び体験をPR
③活動の効果等	家庭の理解と協力が進みコミュニケーションが深まっている。メロディ演奏できることによって健常者が思う以上に彼等に達成感と自信をもたらす自己肯定感が増している。障害者の行動半径や交流関係はともすると障害者の関係だけの集まりになりがちであるが地域の人たちとの交流の機会が多くなり、地域の中での存在感を示す機会になっている。同時に社会参加をする機会が増えてきている。区内において文化演奏活動している団体が一同に集まる“千代田区芸能のつどい”では事業開始から35年目にして障害がある人たちの演奏団体として初参加できたことは画期的なことだった。

活動の様子



とっておきの音楽祭 in 仙台



神田一橋中学校放課後特別講座紹介演奏

プロフィール

所在地	東京都練馬区
団体名	特定非営利活動法人練馬区水泳連盟
活動名称	ノーマライゼーション水泳フェスティバルの開催、 障害者専用コースの運営
こんな活動です	障害のある人も、ない人も共に水に親しみ、楽しみを共有することでノーマライゼーションを図り併せてアリーナではユニバーサルスポーツを楽しむ
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO法人、社会福祉補人、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局、スポーツ振興課）

功 労 者 表 彰

活動分野	スポーツ
主な対象	すべて（主に身体障害、知的障害者）
団体の規模	役員 25名 加盟団体 17団体

活動の説明

①活動内容	<p>翌年の国際障害者年を記念して昭和 55 年に区教育委員会が『第 1 回心身障害児水泳教室』を開催した。終了後の受け皿として指導員ボランティアによる自主グループ『あすなる』の活動が続いたが『無料でもっと多くの利用者が定期的に水泳の場の提供』をと障害児父母と指導員の要望で 1 年間の試行を経て昭和 60 年『障害者専用コース』が誕生した。障害者手帳を持つ人は誰でも登録利用できる専用コースは多くの障害者と家族が水に親しんだ。『第 5 回日本障害者シンクロナイズドスイミング大会』が東京で開催された時、大会運営者より障害者専用コース利用者の参加を求められ、6 歳から 70 歳までの障害者とその母親、指導員で練馬のチームを結成し参加した。</p> <p>終了後、参加した皆様から『今まで仲間と協力して作り上げる喜びを知らなかった』『障害者同士の交友や家族の応援など人生観が変わった』この喜びの声を聞き、身近な地域開催の必要性を感じ、本連盟で『実行委員会』を立ち上げ、平成 10 年に『第 1 回ノーマライゼーション水泳フェスティバル』を練馬区立体育館で開催した。内容は『する・みる・応援する』をコンセプトに『みんなで踊ろう・ゲーム・記録にチャレンジ・パフォーマンスショー・スポーツ体験等』を提供し本年で 22 回目となる。</p>
②活動体制	<p>障害者専用コースの指導員は区が主催する指導員養成講習会に参加された者が登録され、現在では 6 つの体育館（月曜日～金曜）で障害者手帳を持っている障害者はどの体育館でも利用することが出来る。区と共催して行うフェスティバルは毎年広く関係者に呼びかけ実行委員会を立ち上げている。前年の反省に基づき方針を決め、要項を作成し一方ではボランティアを求めるとともに参加者の募集も行う。実行委員会並びに準備会は 20 回近く行い大会前日に協力するボランティアも交え全体会を開き、当日は全員が笑顔で安全安心を心掛け楽しさを共有する姿勢で臨む。</p>
③活動の効果等	<p>障害のある人が身近な地域で継続して水泳を楽しめる専用コースの存在には大きな意義がある。障害者には各々の目的がありリハビリ、体を鍛える・友達と楽しむ・発散する・水に親しむ・等々、利用者の目的達成のためには安心安全な環境提供が重要なポイントになる。専用コースの環境が満たされ各々の目的に沿った支援ができる。専用コースは人と出会える、喜びを分かち合える、素敵な魅力となり障害者の社会参加にもつながる。フェスティバルの開催は日ごと積み重ねた技の発表する場となり記録にチャレンジや演技発表は達成感が得られ自信につながる。みる・する・応援するこの事業は 150 人のボランティアに支えられ中学生～80 歳までの方々に従事をして頂いている。</p>

活動の様子



ノーマライゼーション水泳フェスティバル(1)



ノーマライゼーション水泳フェスティバル(2)

プロフィール

所在地	東京都新宿区
氏名	池原 照代
活動名称	新宿青年教室
こんな活動です	知的障がいのある方が、日曜日に仲間といっしょに好きな活動をしたりして、楽しく過ごしています。
連携している団体等	公益財団法人新宿未来創造財団

功 労 者 表 彰

活動分野
文化
主な対象
15歳以上の知的障害のある方

活動の説明

①活動内容	<p>新宿青年教室は、約80名の知的障がいのある方々を対象に年間21回10時～15時、5つの活動班に分かれて生涯学習支援活動を実施している。池原氏は「アート班」の主任講師として37年にわたり絵画や創作部門を担当。また、特別活動として実施している遠足やプール活動および、新宿区立角筈地域センターや角筈新春のつどいのような地域のイベントへの参加にも引率したりと、多岐にわたる活動の支援も行い、障がい者の生涯学習支援活動を地域全体に理解していただく取り組みも積極的に実施している。</p> <p>また、講師、サポーターに対する指導力も優れており、現在在籍している15名の講師の中でも中心的存在である。</p>
②活動体制	<p>新宿青年教室の受講生は約80名。講師15名。サポーター約10名。うち池原講師が現在担当しているアート班は約15名。</p> <p>アート班は、講師2名、サポーター2～3名で実施している。</p>
③活動の効果等	<p>新宿区と公益財団法人新宿未来創造財団の共催事業「生涯学習フェスティバル」の絵画展に、新宿青年教室の活動として作成した受講生の作品を出品。複数名の入賞者を輩出してきた。また、池原氏に絵画を指導された受講生の中には、個人的にも池原氏の指導を受け、全国規模の絵画展で入賞している者もいる。</p> <p>受講生からの信頼も厚く、20年以上池原氏の指導する班に在籍している受講生が多数いる。</p>

活動の様子

	
指導風景	指導風景

プロフィール

所在地	神奈川県綾瀬市
団体名	綾瀬市録音赤十字奉仕団コスモスの会
活動名称	広報あやせ・社協だより・市議会だより等の音訳、 会員勉強会、会員研修、講師等
こんな活動です	音訳を通して生涯学習
連携している 団体等	図書館、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局、秘書 広報課）、綾瀬市身体障害者福祉協会視覚部会、神奈川 県視覚障害者援助赤十字奉仕団

功 労 者 表 彰

活動分野
障がい者支援
主な対象
視覚障がい者
団体の規模
会員数 30名

活動の説明

① 活動内容	<p>市広報紙や市議会報、市社会福祉協議会広報紙等をテープや CD に録音し、配布を希望する視覚障がい者へ届けています。また、社会における身近な情報（コラムやニュースなど）について企画、編集、取材を積極的に行い、年 4 回録音発送を行っています。</p> <p>市民の理解を深め、会員確保につながるよう毎年、視覚障がい者の方にお届けする広報紙などの音声訳の技術を学ぶための音声訳ボランティア講座を実施しています。また、会員の音声訳技術向上のため研修などを積極的に行っています。</p> <p>神奈川県録音赤十字奉仕団(会)連絡協議会への事業協力や県ライトセンター主催の研修に参加するなど県域の活動にも積極的に参画し、ボランティア活動の技術向上に努めています。</p> <p>綾瀬市身体障害者福祉協会視覚部会の総会や春の交流会、お楽しみ会などの活動についてもお手伝いをしています。</p>
②活動体制	<p>市広報紙の音訳作業については編集・録音・発送を年間 24 回実施しております。並行して市議会報や市社会福祉協議会広報紙についても編集・録音・発送を年間 4 回行っています。また、会員の技術向上のため、平成 30 年度は会員勉強会を 6 回、会員研修を 6 回実施しました。</p> <p>市及び社会福祉協議会はもちろんのこと綾瀬市身体障害者福祉協会視覚部会、神奈川県視覚障害者援助赤十字奉仕団等とも連携しながら活動しています。</p>
③活動の効果等	<p>市広報紙や市議会報、市社会福祉協議会広報紙等の音訳や、身近な情報（コラムやニュースなど）を取材したテープ雑誌の発行を通して、視覚障がい者に様々な情報を提供しています。視覚障がいをお持ちの方にも地域の情報をお届けすることで、情報格差の解消に効果を上げています。支援者の方に感謝の言葉をいただくこともあり、会員もやりがいを感じています。</p> <p>交流会をきっかけとしてつながりも深まっており、コミュニケーションや情報交換の場としても良い効果を発揮しています。</p>

活動の様子



活動の様子 1



活動の様子 2

プロフィール

所在地	神奈川県横須賀市
団体名	横須賀市点訳奉仕会
活動名称	点訳奉仕
こんな活動です	視覚障害者とともに読書を楽しもう!
連携している団体等	行政（保健・福祉部局）



奨励者表彰

活動分野	点訳奉仕
主な対象	視覚障害者
団体の規模	会員 110名

活動の説明

①活動内容	<p>(1)蔵書点訳の作成(英語、数学、楽譜を含む) 昭和36年度～平成30年度合計14,271冊 (平成元年度以降 2,731タイトル 9,800冊)</p> <p>(2)触図作業 触ってみる地図づくりおよび触って読む漢字づくり</p> <p>(3)特殊インク(発泡インク)を用いた印刷 カレンダーやしおり等の作成</p> <p>(4)拡大文字による教科書の作成 弱視の小・中学生のための拡大文字による写本教科書づくり</p> <p>(5)その他の活動 「広報よこすか」の点字データ作成、ハザードマップ作り、市民に対する点字の普及など</p>
②活動体制	<p>令和元年度会員数 110名(賛助会員36名を含む) これらの会員が、前記①の活動を行っているが、会員によっては、単一の活動ではなく、複数の活動を行っている。</p>
③活動の効果等	<p>横須賀市の視覚障害者に対する情報提供だけでなく、蔵書点訳の作成にあつては、現在では、サピエ図書館を通じて、全国の視覚障害者に情報を発信している。 今後も、横須賀市点字図書館や他のボランティアグループ(朗読奉仕会や視覚障害者の誘導グループ)との連携を図り視覚障害者とともに歩んでいく所存です。</p>

活動の様子

	
触る地図「汐入駅～福祉会館」(原版(左)と製品(右))	教科書(左)と拡大文字写本教科書(右)

プロフィール

所在地	新潟県十日町市
団体名	十小・十中・ふれあいの丘 ほほえみの会
活動名称	特別支援学級と支援学校の保護者や教職員ボランティア、地域ボランティアによる交流や協力及び支援
こんな活動です	小・中・特別支援学校併設の「夢の学校」で、「共生教育」を支えて！
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、PTA

功 労 者 表 彰

活動分野	文化
主な対象	すべて（主に知的障害）
団体の規模	保護者 88名 教職員 22名

活動の説明

①活動内容	<p>3校のPTAや地域の支援者に支えられながら、自主・独立の会として、障がいのある子もない子も共に学び、共に育つ「共生」の理念に基づいて、交流や協力及び支援活動を行っています。</p> <p>①楽しみながら成長を促す花火大会の企画・実施（8月） 特別支援学校の児童生徒に司会を任せるなど、児童生徒が協力して役割を果たすことにより、達成感や自己肯定感をもたせています。また、ボランティアが様々な店を出したり、楽しい劇や読み聞かせをしたり、みんなでダンスをしたりして、交流を深め、豊かな心を育むとともに、一体感を味わうことができる場となっています。</p> <p>②社会性の育成を目指したクリスマス会の企画・実施（12月） 特別支援学級・学校在籍以外の児童等も参加し、障がいのある児童生徒の交流の幅を広げています。ボランティアと教職員が協働で名作劇を演じ、楽しみながら情操教育にもつなげています。ケーキ作りでは初対面の家族で班を作り、自己紹介や役割分担をすることで、コミュニケーション力を高めたり、社会性を育成したりしています。</p> <p>③活動費の支援 寄付や募金活動により活動費を集め、小・中の支援学級、特別支援学校の活動やその支援に係る費用、支援・学習・体験教材の購入費用を補助しています。</p> <p>④学習環境整備のための特別支援学校設立運動 平成5年より「養護学校がましい会」と連携し、普通学校と隣接した環境による障害児教育を目指して運動を行ってきました。平成14年には小学校の空き教室を利用した特別支援学校の分校の開校、平成25年には小学校、特別支援学校、発達支援センターの3施設併設の新校舎が完成し、理想的な学習環境整備に尽力しました。</p>
②活動体制	<p>十日町小、十日町中、ふれあいの丘支援学校のPTAと教職員で構成され、PTAより会長、副会長を選出し、3校で連携・協力して企画や運営に当たっています。支援者は小・中の9年間を見守ることで、障がい児の成長を知り、特別支援教育の有効性を実感しています。また、様々な場で多くの人に活動を伝えることで、障がいについての理解の促進にもつながっています。PTAのOBとなっても役員として会にとどまり、支援者が継続して増えていく体制であることが、障がい児への手厚い支援だけでなく、障がい児の社会的自立や生涯学習にもつながっています。</p>
③活動の効果等	<p>多様な体験活動を通して、多くの交流の場があり、障がい児が自己の特性・能力を発見し、伸張するための良い機会となっています。また、先輩の姿を見ることは、自己の将来像を描くための大きな手助けとなっています。多くの支援者による手厚い支援により、成功体験を積み上げることができ、自己肯定感を高めたり、社会的自立につながったりしています。3校の横断的組織として、会員が積極的に地元地域へボランティア活動の参加を呼びかけることで、各校OBや地域住民など多くの地域ボランティアが支援者として参加し、今まで障がい児と接することのなかった方々が直接障がい児と接することで、特別支援教育の理解とともに障がい者の生涯学習にもつながっています。</p>

活動の様子

		
花火大会でのお話の会「エビ姫ものがたり」	クリスマス会でのカップケーキ作り	クリスマス会での名作劇「かさこじぞう」

プロフィール

所在地	岐阜県各務原市
団体名	二村 元子
活動名称	障がい者の芸術活動支援
こんな活動です	障がいのある方とともに、アートを通して、 価値変換していく場づくり
連携している 団体等	文化芸術活動を行う団体（NPO、行政など）



奨励者表彰

活動分野
文化
主な対象
すべて（主に知的障がい）

活動の説明

①活動内容	<p>県内外の障がい児者の各芸術教室で講師を勤めながら、自身も造形作家として活動をしている。障がいのある方が自由に表現する楽しさを感じ、自分の可能性を感じられる環境づくりを支援者とともに目指している。また、障がいのある方と社会をつなぎ、さらには新たな価値を生み出すことを目的として、障がいのある方を含めた作品展をギャラリーなどで企画している。この他、視覚障がいのある方が参加できる鑑賞ワークショップや障がいの有無に関わりなく参加できる造形ワークショップも手掛けている。</p> <p>また、障がい者との関わり合いから、行政関連の障がい者にまつわるアートイベント等のキュレーションも行う。</p>
②活動体制	<p>NPO法人や任意団体の美術教室で講師として指導している。また、障がいのある方とアーティストや様々な分野の方々と連携したり、地域の発表の場とをつないだりしている。</p>
③活動の効果等	<p>障がいのある方がやりたいと思う環境づくり、安心して自分なりの表現を保障する場づくりの中で、満足感や自信がもてる方が増えてきた。またアートを通して、障がい者と関わる機会を設けることで、社会の価値観を変えていく実践は、まだ道半ばと言えるが、障がいのある方に関わる人の輪が広がっている。</p>

活動の様子

	
制作の様子	展示会の風景

プロフィール

所在地	静岡県浜松市・静岡市
団体名	ふじのくに チーム★輝き
活動名称	障害者芸術発表会 「ようこそ ふじのくに チーム★輝き ワールドへ」
こんな活動です	障害者を納税者に！ 障害者のパフォーマンス披露を通して積極的に社会参加しよう
連携している団体等	小学校、中学校、特別支援学校、PTA、企業・事業所、行政（県教育委員会、県健康福祉部、静岡市）、個人ボランティア

奨励者表彰

活動分野	スポーツ、文化、 障害に関する講話
主な対象	すべて（主に知的障害）
団体の規模	スタッフ 約 30 名 出演者数 約 100 名

活動の説明

① 活動内容	<p>毎年 10 月の日曜、県内の特別支援学校（小・中学校特別支援学級、通常学級を含む）の在校生・卒業生、保護者等約 30 組が、自分の得意なパフォーマンスを披露する発表会を JR 静岡駅北口地下広場イベントスペースで開催している。障害のある方の関係者だけでなく、足を止めて鑑賞したり歩きながら手拍子を始めたりする一般の通行者も多く、共に音楽や芸術等を楽しんでいる。</p> <p>今までの出演者は、歌（独唱、合唱、オペラ等）、楽器演奏（ピアノ、リコーダー、ギター、ウクレレ・ハンドベル等）、踊り（よさこい、ヒップホップ、剣舞、空手演武等）、大道芸やけん玉・中国ごま、視覚障害者のクイックマッサージ、バルーンアート、モデルのウォーキング、パソコン画・陶人形・切り絵等の実演と作品展示、障害についての話など多岐にわたって発表している。</p>
② 活動体制	<p>2009 年より活動を始めたボランティア団体。事務局が年度当初県内の全特別支援学校に出演希望の募集をかけ、チラシを作成する。各校の保護者、教職員、出演者の関係者にチラシを配付し、宣伝してもらう。事務局はハローワーク、労働基準局、商工会、商工会議所、青年会議所等にチラシやDVDを配付して理解を仰ぐ。企業・事業所・個人に働きかけて協賛金を集める。</p> <p>当日は円滑に運営できるようにプロの音響に依頼し、スタッフの役割を明確に分担して臨む。</p>
③ 活動の効果等	<p>○出演者は自分の得意なことを発表する事を通して見ず知らずの多くの人に褒められ認められるので、自己肯定感や成就感、達成感を味わい自信ある行動がとれるようになった。</p> <p>○出演者は毎年同じ時期に会を開いているので自分自身の目標がはっきりし、上手に発表できるようにしたいと自律的に主体的に練習に取り組むようになり生き生きと生活するようになった。</p> <p>○保護者も我が子の他の地域イベントへの出演、余暇活動の充実など積極的になった。</p> <p>○障害者の輝く姿に感動した通行者の中に、この会を楽しみに観に来てくださる方が増えた。</p> <p>○観に来られた企業関係者から雇用の場の提供があった。</p> <p>○障害者への理解が進み、温かな地域づくりへのきっかけとなっている。</p>

活動の様子



表情、掛け声、所作で表現の喜びを感じながら剣舞を踊る。



拍手が苦手なため手話拍手を笑顔一杯で観客に要求している。

プロフィール

所在地	愛知県知多市
団体名	音訳・みずぐるま
活動名称	録音図書の作成
こんな活動です	図書館で利用される録音図書を作成し、視覚障害者の方たちの読書活動を支援。
連携している団体等	知多市立中央図書館

功 労 者 表 彰

活動分野	文化
主な対象	視覚障害者
団体の規模	会員数 14名

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知多市立中央図書館にて使用される録音図書の作成を行う。 ・ 毎年、録音済み・録音中を合わせ 20 本ほどを作成し、視覚障害者や高齢者の方の利用に供する。また視覚障害者のお宅への送付用に、録音図書の目録も録音資料として作成。利用できるタイトル数はカセット 524 件、デージー資料 29 件（2019 年 3 月末現在） ・ 毎年、正確な発音による朗読と聞きやすい録音図書の作成、また挿絵などの表現のための学習など、団体が自主的に講師を招いた講習会を開き、技術の向上に意欲的に努めている。また 2014 年からはデージー化を目指し機器も購入し、年 3 回の講習を受けデージー作成技術をマスター。 ・ 市主催の福祉フェスティバルでは、音訳資料やその利用法の紹介、また普及にも尽力している。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館内に録音室が 2 か所あり、会員が交代で利用しながら各自が受け持つ図書を録音する。利用時間は 1 回 2 時間程度で、毎週述べ 10 名ほどが活動。日にちは不定期。会員が活動できるときに来館し録音する。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変聞きやすい録音図書が作成されており、利用される方々からは好評を得ている。 ・ 市場に出回っていない話題の本や、リクエストされた本が録音図書として利用でき、利用者の読書支援に貢献している。

活動の様子



録音図書の作成の様子



図書館内の録音図書の棚

プロフィール

所在地	愛知県豊田市
団体名	豊田中央図書館点訳グループ
活動名称	点字本製作
こんな活動です	図書館の所蔵本を点訳しています。
連携している団体等	豊田中央図書館

功 労 者 表 彰

活動分野	学習、文化、郷土
主な対象	視覚障害者
団体の規模	20名

活動の説明

①活動内容	<p>豊田中央図書館にボランティアとして所属。図書館で選書された本や利用者の方のリクエストの本、プライベートサービスなど多岐にわたって点訳しています。点訳本は図書館の障害者資料として所蔵されます。また、点字データは、サピエ図書館で利用することができます。</p> <p>(平成30年度の点字製作：61タイトル209冊)</p> <p>他に、毎月の障害者コーナーだより(12回/年)、中日新聞連載小説を継続的に点訳しています。(平成30年度中日新聞連載小説製作：54回分)</p> <p>図書館が開講する講座へ参加したりグループ内で毎月勉強会を行ったりと、積極的に点訳処理のスキルアップに努めています。</p>
②活動体制	<p>毎週金曜日、図書館に集まり、各自が作成した点訳の印刷作業を行っています。また、毎年5月の図書館主催の総会への参加、スキルアップ講座への参加、グループ内で月1回の勉強会を実施しています。</p>
③活動の効果等	<p>主に愛知県豊田市に在住の視覚障害の方に、図書館所蔵の墨字本を点訳し点字本を提供してまいりました。また、サピエ図書館を通じて全国の視覚障害者の方に利用していただいています。</p> <p>実際に点訳図書を利用された方からは、完成度の高い点訳であると評価をいただいています。</p>

活動の様子



図書館での活動の様子(毎週金曜日)



講座の様子

プロフィール

所在地	三重県鈴鹿市
団体名	株式会社三厚連ウイズ
活動名称	会社を拠点とした余暇活動支援
こんな活動です	会社でチームを編成して、県障がい者スポーツ大会へ参加しています!
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、病院・保健所、行政（教育委員会）

奨励者表彰

活動分野	社会教育
主な対象	知的障がい者
団体の規模	社員数 30名

活動の説明

①活動内容	<p>当団体は、スポーツを通じた社員の社会参加の取組を推進しています。</p> <p>県ふれあいスポレク祭や地域のスポーツフェスティバルへ積極的に参加するとともに、社員旅行、成人式、新年会等の行事的な活動を実施し、余暇活動の充実を図っています。</p> <p>特に、県障がい者スポーツ大会へは、会社でチームを編成し参加しており、社員は全国障害者スポーツ大会への出場を目標に、休日には地域の競技団体の練習会にも計画的に参加しています。</p>
②活動体制	<p>当団体は、管理職 1 名、職場支援従事者 9 名、障がい者 20 名(知的、精神)で活動しています。</p> <p>障がい者が中心となって病棟・病室内の環境美化等の業務を行っている平成 25 年 2 月に設立された企業です。</p>
③活動の効果等	<p>平成 28 年度からは、毎年度全国障害者スポーツ大会へ 1~2 名が出場し、他県の選手と友好を深めています。</p> <p>今後も、社会生活に必要な知識・スキル等を学習できる場を提供することで、会社全体で障がい者の生涯にわたる学びを支えていきたいと考えています。</p>

活動の様子

	
県障がい者スポーツ大会 開会式での選手宣誓	県障がい者スポーツ大会 チームで出場したリレー

プロフィール

所在地	大阪府茨木市
団体名	茨木市バラの会
活動名称	茨木市バラの会
こんな活動です	幅広いジャンルの点字図書を製作しています
連携している団体等	図書館、社会福祉法人

功 労 者 表 彰

活動分野	文化
主な対象	視覚障がい
団体の規模	会員数 20名

活動の説明

①活動内容	<p>茨木市立中央図書館の視覚障害者等サービスに、昭和53年から下記の活動を通じて協力しています。視覚障害者等サービスには活字による読書が困難な市民が登録し、利用しています。</p> <p>1 点字図書の製作</p> <p>点字図書は1冊の本を点字に置き換えたものです。点字図書の製作には読み方の調査/点訳/校正作業があり、一冊の本を音訳するにあたっては期間が半年ほどかかります。これには3人の会員が携わります。利用者の要望に応じ、楽譜・歌詞・編み物の図面など、技術を要する資料を点訳します。</p> <p>2 障害に対する理解促進行事への参加</p> <p>茨木市立中央図書館において「点字でお名前シールを作ろう」を開催し、主に児童に対して視覚障害への理解を促進しました。平成30年度参加者24人。</p> <p>また、日本ライトハウス情報文化センターにおいても継続して活動しており、図書サービスにおいて資料の貸出・返却に協力をしています。(月に2回)</p>
②活動体制	<p>茨木市バラの会に入会するにあたって、「点訳ボランティア入門講習会」(全13回)を受講し、点訳の基礎を学びます。毎週金曜日を活動日として集まり、点字図書の製作のほか、図書館内の飲料の自動販売機や階段の手すりに点字表示を貼付したり、点字カレンダーを作成したりして、障がいのある人の生活に寄り添った活動を続けています。</p>
③活動の効果等	<p>視覚障害者等サービスの点字図書利用者数：26人 貸出実績：19タイトル</p> <p>点字図書の通算製作実績：1346タイトル</p> <p>施設間の相互貸借の積極的利用により、他市町村・府外の施設に対しても貸出を行っています。</p> <p>平成30年度貸出実績：19タイトル (数値はすべて平成30年度末のもの)</p>

活動の様子



校正のため、墨字で印刷した本文をチェックする様子



点字プリンターで図書を打ち出しする様子

プロフィール

所在地	大阪府茨木市
団体名	グループ藍野
活動名称	グループ藍野
こんな活動です	正確な音訳で録音図書の製作を続けています
連携している団体等	図書館、行政（市長部局）

功 労 者 表 彰

活動分野	文化
主な対象	活字による読書が困難な人 (視覚障がい、発達障がい、 身体障がい等)
団体の規模	会員数 31名

活動の説明

①活動内容	<p>茨木市立中央図書館の視覚障害者等サービスに、昭和50年から下記の活動を通じて協力しています。視覚障害者等サービスには活字による読書が困難な市民が登録し、利用しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 録音図書の製作 <p>1冊の本を音訳したものが録音図書です。録音図書は、一定の基準に沿って一つの資料をできる限り忠実に音声化したものです。現在は、DAISY図書というデジタル録音図書が主流になっています。音訳には読み方の調査/読み/校正作業があり、一冊の本を音訳するにあたっては期間が1~2年かかります。これには3~4人の会員が携わります。</p> 地域情報の発信・音訳 <p>茨木市広報の音訳を毎月行っています。また、グループ藍野独自の音訳雑誌「藍野マガジン」を年に3回発行し、地域の情報や新刊図書の紹介をしています。</p> 対面朗読の実施 <p>利用者の希望する資料をグループ藍野の会員が対面で読み上げます。 平成30年度実績：18回（36時間）</p>
②活動体制	<p>グループ藍野に入会するにあたって、「音訳ボランティア入門講習会」（全11回）を受講し、音訳の基礎を学びます。また年6回の「技術研修講習会」を受講し、正確な音訳を行うための技術の向上に努めています。入会してすぐの経験の浅い会員は、藍野マガジンの製作を中心に行き、先輩会員の指導を受けながら、音訳経験を積んでいきます。</p>
③活動の効果等	<p>視覚障害者等サービスの実利用者数：41人 貸出実績：851タイトル 録音図書の通算製作実績：カセットテープ図書 747タイトル、デージー図書 308タイトル 録音図書は、施設間の相互貸借の積極的利用により、他市町村・府外の施設に対しても貸出を行っています。 平成30年度貸出実績：134タイトル (数値はすべて平成30年度末のもの)</p>

活動の様子



パソコンを使用した音訳の様子



対面朗読の様子

プロフィール

所在地	島根県松江市
団体名	社会福祉法人島根ライトハウス ライトハウ斯拉イブラリー
活動名称	視覚障がい者を対象とした情報提供事業
こんな活動です	点字や音声の図書・雑誌の製作と貸し出しをはじめ、 点字発行物や音声情報誌の配布を行っています
連携している 団体等	行政(広報関係)、 NPO法人全国視覚障害者情報提供施設協会

功 労 者 表 彰

活動分野	学習、文化
主な対象	視覚障がい
団体の規模	職員数 9名

活動の説明

①活動内容	<p>昭和37年から50年以上の長年にわたり、視覚障がい者のための図書館を運営している。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 利用者登録 個人625名、団体480団体 * 県内だけでなく、視覚障がい者情報提供施設のネットワークを通じて全国に貸し出し <p>①点字図書・点字雑誌、録音図書・録音雑誌(カセットテープ、CD)の製作と貸し出し 製作する図書は、視覚障がい者にとって必要な知識・情報、学習や楽しみなどにつながる図書、地域関連図書の中から利用者の関心の高い図書などの視点で選んでいる。また、図書以外にも受験参考書や学校の副教材などの点字・音声化など個人の希望にも対応した製作も行っている。 (平成30年度実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 点字図書等: 製作240タイトル、貸出532タイトル、ダウンロード貸出2,225タイトル * 録音図書等: 製作85タイトル、貸出10,150タイトル、ダウンロード貸出17,200タイトル <p>②点字・音声発行物の配布 「島根県だより」(点字・音声)年6回、松江市広報誌(点字)年12回、 松江市社協だより(点字・音声)年6回、図書館だより(点字)年2回 等</p> <p>③情報誌の配布 年6回「声の便り 虹」(音声・メール)年6回</p> <p>④点字JBニュース(日刊)の配布(新聞の抜粋記事などの点字版ニュース、拡大文字版もあり)</p> <p>⑤点字図書を製作する点訳ボランティアや録音図書等を製作する音訳ボランティアの養成 年25回 (平成30年度育成実績)点訳6名、音訳10名、テイジー編集1名</p> <p>⑥点訳・音訳技術の向上を図るためボランティアを対象としたスキルアップ講習会などを定期的に開催</p>
②活動体制	<p>○法人職員9名、ボランティア268名</p> <p>ボランティア登録している会員で分野、地域単位のグループがつけられており、そのグループと協同して研修会、勉強会を開催。また、当施設が主催する事業や視覚障がい者団体の行事についても協力を得ている。</p>
③活動の効果等	<p>視覚障がい者の読書活動の機会や各種情報に触れる機会を提供し、障がい者の生涯学習に大きく貢献している。</p>

活動の様子



点訳ボランティアの自主勉強会の様子



録音室で録音図書を製作するボランティア

プロフィール

所在地	岡山県岡山市
団体名	岡山県グラウンド・ゴルフ協会
活動名称	岡山県グラウンド・ゴルフ特別支援学校交歓大会の開催、県内特別支援学校への用具一式の寄贈
こんな活動です	グラウンド・ゴルフを通して、スポーツの楽しさを経験し、交流を深める活動です。
連携している団体等	特別支援学校、行政（教育委員会）

功 労 者 表 彰

活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害、肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、病弱者
団体の規模	会員数 約 6,500 名

活動の説明

①活動内容	<p>岡山県グラウンド・ゴルフ協会では、平成18年度から岡山県内の特別支援学校全16校に対してグラウンド・ゴルフ用具一式の寄贈やグラウンド・ゴルフの普及指導を行うとともに、平成21年度から毎年7月に『岡山県グラウンド・ゴルフ特別支援学校交歓大会』を開催しており、今年度は第10回目となる節目の大会を開催しました。本大会は、毎年、生徒や同協会普及指導員等が200名以上参加する大規模な大会となっています。</p> <p>本大会は、岡山県内特別支援学校生徒に対し、グラウンド・ゴルフを通してスポーツの楽しさを伝えるとともに、生徒同士がチームとして協力することの大切さを学ぶ機会や、他校生徒等との交流の機会を提供しています。</p> <p>＜第10回岡山県グラウンド・ゴルフ特別支援学校交歓大会＞</p> <p>日 時 令和元年7月24日（水）</p> <p>場 所 岡山ドーム</p> <p>参加者 約250人（参加校：13校）</p>
②活動体制	『岡山県グラウンド・ゴルフ特別支援学校交歓大会』の開催に当たっては、同協会が中心となり企画運営や特別支援学校への用具の提供を行い、岡山県教育委員会や各特別支援学校が大会の準備等に協力しています。
③活動の効果等	<p>岡山県内特別支援学校生徒は、グラウンド・ゴルフを通してスポーツの楽しさを経験し、生徒相互の交流を深めるとともに、本大会の参加を目標に練習に励むなど、意欲の向上につながっています。</p> <p>また、本大会の開催を通して、障害のある生徒の社会参加と理解啓発の促進に貢献しています。</p>

活動の様子



岡山県グラウンド・ゴルフ特別支援学校交歓大会①



岡山県グラウンド・ゴルフ特別支援学校交歓大会②